



岡山青年部会だより

34号

編集・発行: 一般社団法人岡山ビルメンテナンス協会 青年部会 広報委員会
平成 29 年 12 月 21 日 発行 (通算 34 号)

福本さん 全国に挑む

「ビルメンヒューマンフェア&クリーン EXPO 2017」において第15回ビルクリーニング技能競技全国大会が開催され、中国地区代表選手として公益財団法人岡山県愛染会の福本悦美さんが出場した。入賞は叶わなかったが優れた試技を披露した。

24。当協会に関係するそんな数字から書き出してみる。なんの数字かぴんとくる方はあまりいまい。24。わが協会の推薦選手がビルクリーニング技能競技全国大会に出場できなかった年数である。

およそ4半世紀ぶり。岡山県を背負って、福本悦美さんはその日、スポーツライトに照らされた全国大会のコートに立っていた。2017年11月16日のことである。岡山から参じた30人が競技開始の時を待つ福本さんを見守っていた。愛染会の関係者の方々と、小川協会長以下岡山協会員から成る応援団である。そこには大人達に混ざり幼い姿もあった。福本さんの娘さんと息子さんであり、少女と少年は肩を寄せ合うようにして、全国を敵に回しての闘いを始めようとするお母さんの佇まいに固唾を呑んでいた。東京モーターショーを始めとする大きな催しが連日開催される広くて広い東京ビッグサイトで。

ビルクリーニング技能競技とは何か。床表面洗浄作業において、高度な技術で、効率よく、かつ安全に、様々なことに工夫し配慮しながら、最高級の品質を、私はエレガントに作り上げることができず的参加選手がしのぎを削って優劣を決す、端的に言うとそのような競技である。ひとりの技能士が全国をめざすと道程は遠い。福本さんは練習を始め、まず岡山県大会で優勝した。さらに稽古し中国5県の代表16名が参加する中国地区大会で準優勝した。そこからさらに研鑽を積んで全国選りすぐりの18人に名を連ねているのだ。



福本選手応援団

前列愛染会の皆さん、中列協会会員の皆さん、後列青年部メンバー

いつころからか夜毎いやな夢を見るようになったという。本番で惨敗し自分を支援してくれる人々の期待を裏切ること、何よりも彼女は怖れた。正夢とせぬよう自からに渾身の努力を強いた。そして福本さんはついに東京ビッグサイトのステージの上で、Aコート5組目、13時15分、尋常じゃない



ほど高い天井に向かって手をあげて競技開始をコールして、始動したのだ。

「いつもはしないミスをいくつもしてしまった」と後に本人は語ったが記者には始終順調に見えた。動きはスムーズであり、安定していた。一度だけ焦ったシーンがあった。ポリシャーに装着したパット台というツールをマインストライバーで外す工程、過去の練習ですんなり外れなかったことなどただの1度もない工程なのに今日に限って外れないのである。リトライが2度3度と空振りギャラリーにも動揺が広がりはじめたそのとき、会場に力強い声が響いた。「がんばれ。落ちつけ」

応援団長の愛染会羽原課長だった。その激励は福本さんを勇気づけた。心配かけちゃってごめんなきに的に微笑んだ福本さんの横顔は、この日の白眉の絵であった。

「ママ、がんばれ」途中、子供さん達も声をかけた。ふたりはずっと見てきた。岡山大会から始まる全国大会までのお母さんをずっと見てきた。一緒に闘っているような気持ちだったのかも知れない。

後日福本さんから、子供達ふたりともが競技会を作文に書いたことを聞いた。おねえさんの作文は地元の市長から表彰された。このような内容だったという。

清掃という母の仕事について正直やネガティブなイメージを持っていた。しかし誰にでもできる簡単な仕事でなく高い技術を必要とする奥深

い仕事であることが知った。意義のある仕事であることも知った。働く人競技会という形でこんなにも華やかな舞台を用意する業界であることも知った。あらためて母を誇りに思う。早く大人になって、仕事をしながら私たちを育ててくれていた母に、大好きなお母さんに、恩返ししていきたい。

福本さんは結局全国大会で入賞には届かなかった。しかしこういう勝ち方もあるのだと気づかされる作文である。

ビルクリーニング技能競技大会が開催される目的とは何か。業界のイメージを高めることや業界の担い手であるクルーに輝ける場所を提供することなどではないかと推察するわけだが、福本さんのお嬢さんの書いた天使すぎる作文の内容に感動し、息子さんの受けとった印象も同じだろうと察する時、第15回ビルクリーニング技能競技全国大会は、少なくとも一組のファミリーにとって機縁となる素晴らしいイベントであったのだろうと思わずにいられない。

岡山ビルメンテナンス協会青年部
広報委員長 麻田 浩



福本さんに大会直後、全国大会の感想を書いていただきましてのでご紹介いたします。

「全国大会を終えて……」
県大会、中国大会、全国大会まで応援してくださった皆様、岡山協会の方、講師の方、会社の方、こ

の大会に携われた皆様、色々なところでサポートしていただき、支えていただきありがとうございます。このような貴重な経験をさせていただいたことに感謝しています。

全国大会に出場し、私の中での人生観がとて大きく変わりました。本番を迎えるまでの日々は正直辛いと思うこともたくさんありました。大人になってこんなにも努力したのも初めてでした。

思い通りにいかない日々の中で会社の方、講師の方、家族に支えられながら練習をしてきました。本当に私が全国大会に出られるレベルなのか悩んだりしたこともありましたが、何度も何度も見聞にいかせていただき練習を重ね、なんとか本番までに自信をつけ楽しんで競技が行えるよう頑張りました。

本番の日を迎え、自分の競技が始まる前、応援団の方々から応援をしていただきました。桃太郎の替え歌：横断幕も中国大会とおなじ手作り：愛染会らしく心がこもっていてとても嬉しかったです！

会社の方も緊張するなか大きな声で応援をしてくださりました！私と同じぐらい緊張して応援してくださる皆様を見て「1人じゃない！」という言葉持ちになりました。とても心強かったです。

競技内容はいつものほしくないようなミスが多く悔いの残るものになってしまいました。しかし競技途中「心配ないよ」「大丈夫」「落ち着いて」など声をかけていただいたので最後までやりきることができたのだと思います。

入賞はのがしてしまいましたでしたがこんなにも自分のことを応援し協力してくれる方がいたんだと思うととても嬉しかったです！

全国大会に出場し、清掃の仕事の面白さにも気づきました。これからももっと知識を身に付けていきたいと思えます。

清掃業界が今まで以上に盛り上がっていくよう、今回の経験を次にチャレンジするクルーに繋げていきたいと思えます！
公益財団法人岡山県愛染会
福本 悦美

福本選手の上司であり、中国地区講師でもある愛染会の長山さんに全国大会に向けての福本選手との取り組み、感想などを書いていただきましたのでご紹介いたします。

福本選手が中国地区代表選手として全国大会に挑んだ歩み

『全国大会出場決定!』

この瞬間から福本選手はまだ想像もできないような高みを目指して更に立ち向かうこととなりました。

中国地区大会では、岡山県大会で倉敷警備保障の田中選手が披露した安全で効率的な資機材の配置方法を、中国大会の1か月前から、同じく岡山県代表となった田中選手と共に児島で練習し、見事に結果を出すことができました。

しかし全国大会では、この資機材の配置場所が「適正な配置」とみなされず減点対象となる可能性があったのです。

「中国地区大会のやり方で更に精度を上げ、全国大会に挑むべきだろうか？」悩みました。福本選手は資機材の配置をスタンダードなやり方に戻して挑むことを決めました。これは苦渋の決断だったと思います。他の出場選手は地区大会までに培った実力に更に磨きをかけるなか、1人リスタートを切るわけですから、練習は児島にて練習場所を確保して頂き、ビルメン協会の資機材をお借りして練習しました。

練習の内容としてはまず中国大会まで苦手としていたポリシヤのコードを捌きながらよりスムーズなポリシヤ操作を行うための練習から始まり、バキュームの作業も新たな作業動線に取り入れ大会直前にはポリシヤ洗浄やワックス塗布の重ね幅を正確に計測し、その作業幅に合わせて練習しました。

実際には品質を重視すれば仕上がりがタイムが伸び悩み、作業効率や姿勢を重視すれば作業残りが発生するなど、上のレベルでの高い水準を極めるのはこれほど深く難しいことなのかと感じました。

本来ならばやり方を確定させ、安定させ、品質や作業時間を良くしていくのが理想だと思いますが、社内の福本選手の所属事業所内で県大会や中国大会に向けて練習していた練習場所が事業所の使用のため練習がほとんどできませんでした。

最後の最後までがき悩みぬいた中で全国大会本番だったと思えます。体力に富む若い年代の選手や身長もリーチも長い選手が全国の会社から出場してきます。気やすく「頑張つて!」と言えないような辛そうな時期も多かったと思います。

しかしながら練習時にはいつも笑顔で絶やさず周りの関わる人にも気を遣いながら、練習時間以外においても体力作りから自身の練習録画のチェックなど、決して怠らな辞めず仕事や家事に追われる忙しい日々の中で常に競技と向き合っていました。そんな福本選手だからこそ、多くの人の協力や暖かい応援があったのではと感じます。

全国大会直前の話で、福本選手は本番に向けて『関わってくれた人達への感謝の気持ちを思い続けて競技に臨みたい』と話していました。また、平日頃から競技大会への出場を通して清掃業界のPRや同じように仕事を頑張る子育てママの励みになればとも話していました。これまで培ってきた技量や練習に対する姿勢だけでなく、人としても全国大会に出場するにふさわしい選手だったなと感じずにはいられません。

この業界に従事している人にとっての模範となって欲しいと願います。福本選手本当にお疲れ様でした。最後になりましたが指導全般において多大に尽力して頂いた麻田講師、新木講師、そしてご協力いただきました岡山協会の皆様、東京ビックサイトにて共に暖かく応援して頂いた方々、厚く御礼申し上げます。大変お世話になりました。

公益財団法人岡山県愛染会
長山 昌広

村山選手(広島)が全国制覇

第15回ビルクリーニング技能競技全国大会において村山繁寛選手(三栄産業株式会社)が見事優勝の栄冠を手にした。中国地区代表選手としては初の快挙であり、中国地方5県で村山選手を祝い、喜びも分かち合いたいところである。

思えば前回の第14回大会、村山選手の前輩である三栄産業(株)の山本和志氏が中国地区代表として20数年ぶりの入賞を果たし、長い期間にわたる当地区の低迷を打破せんとする兆しを見せた。

今回の村山選手の優勝によって、広島県、そして三栄産業さんは全国区の強豪に堂々仲間入りしたといつていいだろう。

平成29年の主な行事

技能競技中国大会in山口 に応援に行つてきました

青年部研修旅行懇親会レポート

平成29年6月15日、16日と山口県周南市の「グリーンビレッジ周南総合スポーツセンター」で第14回ビルクリーニング技能競技中国大会in山口が開催されました。

この見学を兼ねた研修に岡山青年部10数名で大会前日に山口県に入り、研修および懇親会を実施いたしました。

研修は海辺近郊でひらめの養殖が盛んな下松市栽培漁業センターにて研修させていただきました。研修場所の栽培漁業センターでは、ひらめの養殖を主にしている、出荷したひらめの約8割が近郊で消費されているそうでも他にもアワビやタイなども養殖していました。地産地消が根付いていると感心いたしました。

宿泊場所は笠戸島ハイツで、下松市駅前より車で10分程度走った場所ですが、きれいな海や自然が豊かな素晴らしい場所でした。

懇親会も和やかに行われ、仕事の話からプライベートの話まで大変有意義な時間となりました。

中国大会当日は、岡山県代表の3選手の皆さんの素晴らしい実技で感動いたしました。

私自身のビルクリーニング技能競技の見どころは早く正確に作業する姿勢です。そこには、やはり一生懸命に頑張っている姿が、見ている人を魅了するのではないかと思います。それは、我々が生業としてビルメンテナンスで働く人の代表であり、とても大切な姿だと思えます。今回はこの様な機会に参加でき大変光栄に感じています。以上簡単ではありますが、懇親会レポートとさせていただきます。

有限会社創社社
藤下 昌司

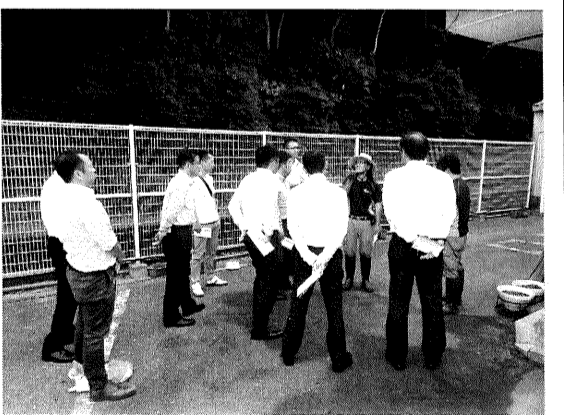


競技中の福本選手(左側審査員)



福本選手応援中の応援団の様子

以上が第15回ビルクリーニング技能競技全国大会関連の記事となります。



下松市栽培漁業センターにて



懇親会での一コマ(後半)



西日本サミットIN大阪

去る6月15日、第11回ビルメンテナンス青年部西日本サミットIN大阪が開催され、川部会長が岡山青年部を代表し出席した。

部会長会議に引き続き、蓬萊551の広報部長田中一昭様の基調講演、ワークショップ実習など有意義な大会であったとのことである。

また懇親会における竜踊りは朗笑を誘う素敵なアトラクションであり天神祭に是非参加したくなつたとのことである。

全国大会IN高知

去る10月12日、第22回ビルメンテナンス青年部全国大会IN高知が開催され小川部会長が参加した。

基調講演はマネージメント21代表松本卓三氏による「10年先のビルメン経営戦略」〜確実時代のビルメン業界のありかた〜で、逆風の中活路を探す業界にとり、たいそうためになるお話であったという。



その懇親会、高知といえば土佐のお座敷遊び。普段の企業の一歩先をい前線で戦い続ける全国の青年たちが癒され心から笑いあえる素晴らしい盛り上がりであった。

お知らせ

平成30年2月22日(木)岡山商工会議所405会議室において、労働安全衛生大会・研修会が開催されます。

協会の皆様、一般企業様からの多数のご参加をお待ちしています。

岡山協会事務局